鹿児島県護憲平和フォーラム情報

NO―150　2023.7.3

発行：鹿児島県護憲平和フォーラム　Email:kenheiwa@bronze.ocn.ne.jp
連絡先：鹿児島市鴨池新町 5－7　TEL　099-252-8585　FAX099-258-4560

トイレを見れば・・・

副代表　　中川路　守

「学校で、子どものために施設改善が必要と思われる場所はどこですか」の問いにみなさんはどう答えますか？　教職員 62%は「トイレ」と答えたそうです。学校のトイレは 5K（汚い・くさい・暗い・怖い・壊れている）のイメージが根強く、学校での排便を我慢する子どもも少なくありません。そこで、文科省は助成金を出してトイレの環境整備に努めています。

環境整備の一つに、トイレの洋式化が挙げられ、全国の洋式化率 57%に対して、鹿児島県は 42.6%です。洋式化は高齢者など足腰の弱い方が使いやすいだけでなく「大小」が分からないので、からかい・いじめの防止にも有効だとか。自然災害の多い鹿児島県ですから、42.6%の整備状況は学校が避難所機能を満たしているとは言いがたいと思います。県教委によると県内すべての学校に男女別のトイレが整備されているそうです。ただ、トイレの入口から奥にむけて仕切られて、確かに男女別になっているのですが、仕切りは上も下も空いており、話し声や物音が筒抜けなだけでなく、足元が見える学校もあります。また、トイレを職員・子ども共用にしている学校もありますが、なぜかスリッパが子ども用しかないのは不思議です・・・つま先立ちがつらい(T_T)さらには、廊下から小便器が丸見えなトイレもあります(；゜Д゜)ましてや「学校の怪談」を想像させるようなトイレは論外です。

誰もが使えるトイレ、多目的トイレと言ったり「みんなのトイレ」と言ったりするトイレが、県内に約４割の学校に設置されているそうです。ＬＧＢＴ法案に関する国会論議で「自認する性で権利を認めればトイレでトラブルが起きる」という指摘がありましたが、多目的トイレの利用で対応できないでしょうか。同時にお互いの権利を守るという約束をつくることも大事だと思います。性については男か女かという二元論ではなく「多様性」でとらえないと相互理解・共生ができない時代になっています。「トイレを見れば、その家が分かる」と言われますが、単に衛生面だけでなく、子ども、高齢者、障がいのある人、ＬＧＢＴ、大人など、誰もが気兼ねなく使えるトイレ、安心して使えるトイレがあるということは「トイレを見れば、その学校(町、会社)が分かる」ことにもつながると思います。

【佐賀海苔カンパの御礼】防衛省は、陸自オスプレイを配備するため、佐賀の駐屯地工事を強行しました。売買契約から３週間あまりで着手し、24 時間体制で稼働する「突貫工事」です。漁民をはじめ地元の反対運動への「佐賀海苔」支援カンパに皆様のご協力に感謝申しあげます。

雨にも負けず　被爆 78 周年「非核・平和行進」スタート

原水爆禁止鹿児島県民会議と県被爆者協議会は、2023 年 6 月 6 日（火）～12 日(月)に、県内の各自治体や議会に対して「非核平和」の要請行動をスタートしました。

初日の鹿児島地区ではあいにくの大雨で、各労組の青年部や女性部の自転車パレードや退職者のデモ行進は中止としましたが、県庁前、市役所前での集会は行いました。

その後、日置地区、南薩、北薩、姶良伊佐の各ブロックが自治体への要請行動を行い、大隅、熊毛、奄美の各ブロックは、7 月末を目途に行う予定です。

県庁前集会は、午前 10 時半から労組青年部や女性部の皆さんと、自治労県職労の役員及び周辺の労組、団体の関係者約 40 人の参加し、降りしきる雨の中、実行委員会の湯田事務局長（鹿児島市職労青年部）の司会進行で始まりました。

実行委員長の野村大志（私鉄鹿児島交通労組青年部）さんは、集会冒頭のあいさつで「広島・長崎に原爆が投下され、今年で 78 回目の夏を迎えます。この平和行進は、今日から県内を一巡します。その後、8 月 9 日長崎で開催される原水爆禁止世界大会まで九州各県・各自治体を回りながら核廃絶を訴えていきます。2017 年にノーベル平和賞を『国際核廃絶キャンペーン』団体のアイキャンが受賞し、世界の潮流が確実に核廃絶の方向に向かい、同年に国連総会で『核兵器禁止条約』が採択され、2021 年 1 月に発効しました。しかし、核兵器保有国の反対や、日本をはじめとする『核の傘』に依存する国々は、これに背をむけ続けています。ウクライナ戦争が収束の気配が見えず、武器使用はエスカレートし、原発や核兵器使用の威嚇が続いています。今こそ『核兵器の無い世界の実現』へ向けて、世界唯一の被爆国である日本の果たす役割が重要と考えます。各自治体におかれては、核兵器を無くし、平和を守り続けるために、行政自らの取り組みにあわせて、日本政府への核兵器禁止に向けた一層のとりくみの強化を求めていただきたいと思います。私たちの運動を拡げることによって、日本政府の動向を変えさせるという強い意志を持って平和行進にとりくみましょう」と訴えました。

第 59 回原水爆禁止鹿児島県民会議・第 15 回鹿児島県護憲平和フォーラム総会開催

県原水禁、県フォーラム総会は、6 月 24 日(土)午後から県労働者福祉会館 7 階で、両総会を開催しました。

総会は、4 年ぶりの対面で、代議員 46 人(内 13 は委任状)が参加し、前半に「原水禁県民会議」が 1 時間、休憩をはさんで「県平和フォーラム」総会を 1 時間半かけて行われました。はじめに、満永副議長が開会のあいさつと議長団選出までを行い、議長団に自治労の浮田浩樹代議員と立憲民主党の吉田健一代議員を選出してスタートしました。主催者あいさつで、平井一臣・原水禁議長は「核が脅しとして使われようとしている。広島Ｇ７サミットは、何ら成果もなく終わりました。また、福島原発の汚染水問題も納得されない中で進められようとしています。川内原発 20 年延長問題も理解と納得はありません。私たちの闘いと市民の声を結集する力になりましょう」と訴えました。次に、県被爆二世の大山正一会長は「毎年、会の存続が厳しくなり、現在は運営委員６人体制で頑張っています。広島Ｇ７サミットは核廃絶への道筋が語られるのかと希望したが、失望しました」と現状と思いを訴えました。次に、2022 年度の活動報告が執行部より報告され、原水禁の会計報告と会計監査報告は、このあとの県フォーラムの総会で報告することを、全会一致で確認し、終了しました。

休憩後の県フォーラム総会では、県連合の下町和三会長が「30 年ぶりの賃上げではありましたが、実質賃金はマイナス、最賃・人勧の課題もあり、連合は社会の仕組みを変える闘いをしていかなければなりません。現行の岸田政権は安倍政権よりひどい」と訴えました。次に、県民連合を代表し、ふくし山ノブスケ県議が「県民連合は４月の改選で４から７名に増え、女性議員も 11 名となり議会に活気が出てきました。県内では、馬毛島基地建設や川内原発 20 年延長問題が県民の賛否以前に事が進められ、県民生活が置き去りにされています。また、教師の残業問題など民主教育を守るとりくみを皆さんと一緒になって頑張ります!」と決意を述べました。次に、県フォーラムの 2022 年度活動報告と決算報告が行われ、全体の拍手で承認されました。次に、執行部が 2023 年度運動方針(案)、2023 年度予算(案)、2022 年度剰余金処分(案)、2023 年度役員(案)を提起し、質疑では、３名の代議員から意見及び報告があり、いずれも今後のとりくみに活かしていく内容として確認されました。次に、総会決議(案)を執行部から、大会スローガン(案)を議長が読み上げ、あわせて全体の拍手で承認されました。

各ブロックからの報告では、熊毛ブロックの大石正博代表が、基地建設がはじまった馬毛島の現状は「生活ゴミの処理、水道・電気の過剰供給、宿泊施設の不足、家賃の高騰、市内に鮮魚がない？労働者の賃金急騰、基地交付金が使い切れないのでは？」など、市民生活への悪影響は計り知れず「こんなはずじゃなかった！」との市民の声が聞こえてきているとの報告がありました。

また、奄美ブロックの城村典文事務局長からは「奄美駐屯地や瀬戸内分屯地は、住民の知らないうちに基地が肥大化している」「度重なる米軍との共同軍事演習が、徳之島や喜界島でも実施されました」「島民は米軍機の低空飛行に、悩まされている」などの報告がありました。最後に、中川路守新副代表(鹿教組)の団結ガンバロウ！で、閉会は終了しました。総会参加の皆さん、大変ご苦労様でした。

【どうなる原発のゴミ全国集会（札幌）、反核燃全国集会（青森）に県原水禁から参加】

福島原発から僅か 12 年しか経たず、いまだ住み慣れた地域に帰れない住民が存在しているにもかかわらず、政府は「原発政策」を抜本的に改悪し、新増設や 40 年廃炉方針を打ち捨てようとしています。また、核ゴミ処分場候補地を躍起になって探し、国際的にも国内的にも猛反対の核物質汚染水の放出を強行しようとしています。こうした中、中央原水禁は、５月 27 日から北海道で全国集会を開催し、核のゴミ受け入れのための文献調査を受け入れた「寿都町・神恵内村」の現地調査を行いました。また、６月 24 日には、青森市で「反核燃」全国集会を開催し、福島原発の現状や、青森での核燃再処理についての学習を行いました。鹿児島からは、札幌集会に県フォーラムの磨島昭広事務局長と南薩ブロック今村重喜事務局次長、 青森集会に鹿児島ブロックの前田秀一事務局長が参加しました。

県フォーラムが参加している『憲法壊すな！戦争法廃止かごしまの会』は、６月４日(日)の午後２時から市内の中央公園で『かごしまを戦場にさせない県民の会』と共催で「大軍拡 NO ！鹿児島を軍事拠点にするな！６．４かごしま集会」を開催し、250 人が参加しました。奄美大島や種子島、鹿屋市からも市民が参加し、特に、種子島では「馬毛島基地建設」問題で、市民生活にさまざまな影響が出ているとの現地報告がありました。平和な南西諸島の島々を日米の軍事拠点にしてはなりません。

南薩ブロックでは、６月 16 日（金）南九州市ひまわり館で、第 13 回定期総会を開催しました。４年ぶりの対面での総会に、代議員・役員 26 人が出席し、来賓に磨島事務局長、諏訪南さつま市議からあいさつを受け、報告、議案など全て、承認されました。当面のとりくみとして、①川内原発 20 年延長を問う条例制定署名活動②高校全入署名活動③護憲大会への派遣④ブロックボーリング交流会などを確認しました。

北薩ブロックでは、６月１７日（土）10 時から薩摩川内市東郷公民館大ホールにおいて「川内原発 20 年延長反対・専門家の眼から見る危険な原子炉格納容器」と題して『後藤政志』さんを講師に、学習会を開催しました。当日は、66 名の参加をいただきました。後藤さんは、映像を交えながら「原発延長の危険性」一貫して主張された、県の分科会の発足から終了までの経緯、その問題点などを丁寧に語られました。危険な川内原発の実態について改めて学ぶ機会を持ち、20 年延長反対の声を強めて行く決意を固めあいました。

姶良伊佐ブロックは、５月 31 日（水）の幹事会に続き、県フォーラムの磨島事務局長を講師「南西諸島の軍事強化による県内の状況」というテーマで学習会を開催しました。馬毛島基地設等により南西諸島で起きている現状等についてご講義頂き、姶良伊佐ブロックそして個人で来る支援について改めて考える時間となりました。

奄美ブロックは加盟団体などと共に６月県議会に向け下記の陳情書を提出するとしています。
①世界自然遺産・緩衝地帯の嘉徳砂丘にコンクリート製護岸堤建設を断念する陳情書
②奄美群島上空での米軍機による訓練飛行禁止を求める陳情書
③奄美を戦場にさせないために平和外交を国に求める陳情書